

遠藤清子 婦人運動家。神聖主義ながら、半獣主義の岩野泡鳴と同棲して話題を振りまいた後、離婚訴訟と暴露小説。

えんどうきよこ

新体詩抄・1882 = 東京市芝区高輪車町に生れる。もと上総国久留里藩家老木村信義の長女。本名清。

後に祖母の遠藤家をつぎ戸主となる。

帝国憲法発布1889 = 7歳 :

足尾鉞毒始・1891 = 9歳 :

日清戦争始・1894 = 12歳 :

教員伝習所で学び、

ビヲ国産化・1900 = 18歳 :

小学校教員、独立学校の英語教師を経て、

電報通信社に記者としてつとめ、その間、

日露戦争始・1904 = 22歳 : *婦人参政権要求のため治安警察法第5条改正請願活動を始め、

日露戦争終・1905 = 23歳 :

インド人・フィリピン人・東洋学生会という中国人などの団体の世話をするなど、"新しい女"の1人で、婦人運動家として知られたが、

アヲ刊・1908 = 26歳 :

電報通信社の同僚で妻子ある中尾五郎との恋愛に悩み、

伊藤博文暗殺1909 = 27歳 :

*国府津の海で入水自殺を企て、漁夫に助けられる。作家岩野泡鳴と知り合って同棲。半獣主義者泡鳴と恋愛神聖主義者である清子の同棲は、'豊が勝つか肉が勝つか'として{万朝報}などで騒がれる。

大逆事件判決1911 = 29歳 :

{青鞥社}に参加。

明治天皇没・1912 = 30歳 :

泡鳴は先妻幸と正式に協議離婚し、

大正政変・1913 = 31歳 :

清子を入籍。

第一次大戦始1914 = 32歳 :

清子は一子民雄(泡鳴には五男)を生んだが、

21ヶ条要求・1915 = 33歳 :

*泡鳴が口述筆者として雇った蒲原英枝と同棲しはじめたため、別居。清子は同居請求の訴訟を起し、泡鳴はこれに対して離婚承諾請求の訴訟を起した。同年、清子は同棲から別居にいたる間の日記を「愛の争闘」として刊行。泡鳴は敗訴したが、

民本主義・1916 = 34歳 :

改めて清子に対する控訴手続きをとる。清子も家族扶助料請求と別居前の立替代金請求の訴訟を起す。

ロシア革命・1917 = 35歳 :

2人の協議離婚は成立。のち洋画家遠藤辰之助と再婚し、

第一次大戦終1918 = 36歳 :

ハルビン条約・1919 = 37歳 :

{新婦人協会}に参加し、婦人参政権運動に活動するが、

大暴落・1920 = 38歳 :

長女を出産後、没した。

平塚らいてうらの旧{青鞥}同人によって、谷中墓地に墓碑が建てられた。